

くずまき高原国際交流推進協議会

ワインがとりもつ交流

葛巻町はワインとミルクとクリーンエネルギーの町。その一つ、ワインがきっかけで始まった国際交流先はドイツ、ライプツィヒ・プファルツ州にある、ワインと温泉の街バート・デュルクハイム。その交流について、事務局の漆真下(うるしまつ)満さんと関村貴文さんにお話を伺いました。



バート・デュルクハイムとの交流

1997年から始まった欧州視察は、98年に名称を「ワインとミルクの旅」とし、ドイツを中心としたワイン産地や欧州のほかの国で酪農家を視察。その後、バート・デュルクハイムがワインか温泉で友好関係を築いていける日本の自治体を探していること、県より紹介があり、交流が始まりました。

2003年、相互交流を推進するため、町内にある会社を中心として、役員職員、議員、学校教育関係者らで構成する「くずまき高原国際交流推進協議会」を設立。ワイン生産者の相互交流、文化交流、人材育成のための交流を活動の柱としています。翌年には、国際理解教育の二環として地元の高校生も欧州視察に参加するようになりました。



バート・デュルクハイムはドイツの中西部ラインラント・プファルツ州にあるドイツワイン街道の中心に位置

するドイツでも有数のワインの産地。人口は約2万人。9月には世界最大のワイン祭りである「ウルストマルクト」が開催されます。

2005年9月、バートデュルクハイムからルツ市長と共に、社会人や学生など14人の市民ボランティアが来町しました。町内の秋祭りパレードに参加、着付けや茶道を習うなど日本文化に触れ、学生は地元高校の部活動で柔道や剣道を学び、町民との交流を楽しみました。

人材育成にも力を入れて

地元の高校から毎年4、5人の生徒が参加する研修では、バート・デュルクハイムの学校を訪問し折り紙や習字など日本文化を紹介し、ホームステイ先は現地の交流団体に参加するボランティアの自宅。そして、世界最大のワイン祭り「ウルストマルクト」でのパレードで大きな看板を持って先頭を歩き、用意した浴衣を着てさんざん踊りも披露します。

訪問先の学校では生徒が積極的に授業を受けている姿勢に驚いたり、ホームステイ先では言葉の壁からの沈黙、食文化や生活習慣の違いなどに戸惑いもあります。しかし、美しい街並みや自然に包まれ、また、言葉の壁があっても、彼らを温かく迎えたホームステイ先の家族や訪問先の学校でもてなしなど、人々の優

しさを感じ、徐々に慣れたようです。「もつと話をしたかった、もつとドイツ語や英語を話せるようになりたい」と、笑顔で帰ってきた生徒を見て、家族は驚きを隠さないといいます。それまで父母に頼りつきりだったのが、積極的に手伝うようになり、一回り大きくなった生徒の姿を家族は喜んでいました。

これからも

欧州視察や技術者の研修も含めたワインに関する交流を中心として活動するほか、いずれはバート・デュルクハイムの高校生たちを迎え入れることも視野に入れています。

欧州視察の後、葛巻では町の中にハンギングバスケットが飾られ、おしやれな街灯を設置するなど、交流の影響も見えます。また、バート・デュルクハイムにある世界一大きな樽をモチーフとした建物を造ることも計画しています。

くずまき高原国際交流  
推進協議会 事務局  
〒028-5403  
岩手郡葛巻町江刈1-95-55  
葛巻高原食品加工株式会社内  
TEL:0195-66-3111  
FAX:0195-66-3112

キース・ヴィースさん

レンズの向こう側に見える岩手

スイス出身の写真家キース・ヴィースさんは、一関市を活動拠点とし、県内、日本各地で出会った人々や風景を写真に収めています。2010年11月には、岩手で初の写真展「Travel Report from Europe～ヨーロッパの調べ～」を県国際交流センターで開催しました。

キース・ヴィースさんのホームページ Right Light GmbH  
http://www.right-light.jp(日本語) http://www.right-light.ch



写真を撮る

写真は6歳の頃から撮っていました。自然、動物、植物を被写体にするのが多く、14歳の頃には自分専用のカメラを持ちました。ニコンカメラ。とても高いカメラです。写真の技術を専門的に学んでいたという訳ではありません。IT学校に通い、会社の経営や経済の仕組みを勉強する傍ら、写真も撮っていました。

岩手との出会い

2010年、日本中をあちこち旅行し、日本に住もうと思いましたが、もう一度行くなら平泉に行きたいと思ったのです。平泉の近くにある一関で出会った方々が手助けしてくれたこともあり、一関に住むことを決めました。一関は平泉に近いということだけでなく、東北地方を回りやすく、また東京へ行くにも数時間で行けるので便利だと思いました。

日本語の難しさに直面する毎日ですが、出会った方からの紹介により日本語のレッスンも受けるようになり日本語のレッスンも受けるようになり日本語のレッスンを覚える必要が多いため、今後は気持ちをもう一つうまく伝えることが出来るよう、日本語でのコミュニケーション方法を学べたらと思います。

弓道、柔道、剣道、書道など、日本語授業の合間に行っています。特に書道には興味があります。漢字を覚えることが出来ると同時に、書き方を学べるからです。

一関にいる友人、岩手で出会った人々、彼らの存在なくして岩手で生活することは出来ません。旅行や写真を通して出会った人との繋がりが、より一層深まっています。

岩手が好き

主に平泉を拠点として写真撮影を行っています。中尊寺や平泉の美しい世界に魅了されると同時に、岩手山、宮古にある島が形成する景観は素晴らしいです。盛岡のさんざん踊りなどの伝統芸能も写真に収めていますが、雪深い季節は特に素敵で、ウインタースポーツをするにも、とても良い場所。スノーボードをしながら冬を楽しんでいます。

そして、何より人柄に好感が持っており、人々の「気持ち」が好きです。とても親切なです。変に遠慮する必要がないと感じています。

平泉を訪問した時に知ったことなのですが、平泉会席という料理があることに、驚きました。甘鯛などの魚介類が好きなので、とても美味しく頂きました。料理の盛り付けも工夫されたものだと思います。都心部にも魅力を感じますが、や

つばり岩手が好きです。

今後取り組みたいこと

これからも岩手で写真は撮り続けていきたいです。会社を設立したので、撮った写真をインターネットに公開していきたい。写真もプリント出来るようにし、様々な発信を考えています。また、写真以外に、スイス特製チョコレート販売することをやってみたいです。日本のチョコレートとは違って、柔らかみがあり、様々な種類の味わいを楽しめ、美味しいです。そして、自分がまだ行ったことのない観光名勝地にどんな足を運んでいくつもりです。岩手では、遠野市に興味があります。河童の存在がとても気になります。



忘れられない一枚

いままでの活動の中で、様々な写真を撮ってきましたが、どれが一番かは決まれません。しかし、その中でも中尊寺に咲き乱れていた山百合の花の美しさは印象深く、忘れることが出来ません。思い出深い写真です。静寂ともいえるような雰囲気を持つこの花は、私たちに平和を投げかけている気がするのです。

\*2010/2011年は「日独交流150周年」です。

■**県国際交流センター会場**  
会場 / アイーナ5階 501会議室 参加費 / 無料  
対象 / 高校生以上の方 定員 / 50名

第1回 日 時 / 2010年9月5日(日)  
タイトル / 3000年紀に生きる～シンボルは「矢」から「星座」へ～  
講師 / 安藤 厚 (財)岩手県国際交流協会 理事長

第2回 日 時 / 2010年9月18日(土)  
タイトル / 国際交流の先人(1)～国際連盟時代の新渡戸稲造～  
講師 / 藤井 茂氏 (財)新渡戸基金 企画部長

第3回 日 時 / 2010年9月23日(木)  
タイトル / 国際協力の基本知識と途上国への技術協力の事例  
講師 / 山田智恵里氏 国際保健コンサルタント、前弘前大学医学部教授

第4回 日 時 / 2010年10月1日(金)  
タイトル / 国際交流の先人(2)～世界の道を拓いた岩手の先人～  
講師 / 梅原愛雄氏 (有)パコスジャパン 代表取締役、ジャーナリスト

第5回 日 時 / 2010年10月9日(土)  
タイトル / 事業活動と国際協力～ミツパチからのメッセージ～  
講師 / 藤原誠太氏 藤原養蜂場 場長、日本在来種みつばちの会 会長

第6回 日 時 / 2010年10月17日(日)  
タイトル / 国際交流の先人(3)～韓国女子教育の母・淵澤能恵と淑明学園～  
講師 / 姜 奉植氏 岩手県立大学 共通教育センター 教授

第7回 日 時 / 2010年10月23日(土)  
タイトル / 南米移住・県人の活躍と交流  
講師 / 吉田恭子氏 ブラジル県人会賛助会員の会 副会長

第8回 日 時 / 2010年11月3日(水)  
タイトル / 多文化共生のまちづくり(1)～留学生から見た日本人～  
講師 / 松岡洋子氏 岩手大学 国際交流センター 准教授

第9回 日 時 / 2010年11月21日(日)  
タイトル / 多文化共生のまちづくり(2)～世界がもし、ひとつの文化だったら～  
講師 / 山西優二氏 早稲田大学 文学学術院 教授

第10回 日 時 / 2010年11月28日(日)  
タイトル / 外国人が見る日本人論～日本と中国の比較文化～  
講師 / ウヴェ・リヒタ氏 岩手県立大学 共通教育センター 教授

第11回 日 時 / 2010年12月4日(土)  
タイトル / 地域からの経済交流～岩手の海外進出の可能性～  
講師 / 林 道郎氏 独立行政法人日本貿易振興機構(JETRO) 盛岡貿易情報センター所長

第12回 日 時 / 2010年12月11日(土)  
タイトル / イスラームを学ぶ、ムスリムと暮らす～グローバル化時代のなかで～  
講師 / 見市 建氏 岩手県立大学 総合政策学部 准教授

第13回 日 時 / 2011年1月23日(日)  
タイトル / 地方自治体の姉妹都市交流～岩手県の市町を中心に～  
講師 / 佐藤智子氏 岩手県立大学 共通教育センター 教授

第14回 日 時 / 2011年1月30日(日)  
タイトル / 海外で「外国人」として暮らす～スウェーデン～  
講師 / ヤンソン柳沢由実子氏 翻訳家、作家

■**宮古会場**  
日 時 / 2010年10月16日(土)  
会 場 / 宮古市役所本庁舎 6階 大ホール  
タイトル / 多文化共生セミナー「外国人の目から見た岩手の生活」  
講師 / 松岡洋子氏 岩手大学 国際交流センター 准教授  
内 容 / 岩手大学留学生による寸劇  
・講演「岩手の外国人の在住状況」

■**北上会場**  
日 時 / 2010年10月30日(土)  
会 場 / 北上市生涯学習センター 第一学習室  
タイトル / 講演&寸劇「外国人の目から見た岩手の生活」  
講師 / ジョン・モリス氏 宮城学院女子大学 教授  
内 容 / 講演と岩手大学留学生による寸劇

■**二戸会場**  
日 時 / 2011年1月23日(日)  
会 場 / 二戸市シビックセンター  
タイトル / 「多文化共生のまちづくりフォーラム」  
講師 / 松岡洋子氏 岩手大学 国際交流センター 准教授

■**千厩会場**  
日 時 / 2011年2月5日(土)  
会 場 / バレスズキ・マリアージュ  
タイトル / 一関地域多文化共生研修会  
内 容 / 岩手県の多文化共生推進プランの説明  
・一関市の多文化共生推進行政の説明  
・岩手大学留学生による寸劇と講話

世界平和を願う  
市民対市民の交流を通して世界平和を求めようとしたアメリカの第34代大統領アイゼンハワー(1953～1961)は、就任後3年目に市民代表を招集した会議で、彼の信念を語っています。「世界平和を強固に構築するにあたり、市民対市民プログラムそして姉妹都市提携は大きい期待できる」。

日本の姉妹都市提携の第1号は、長崎市とアメリカ・ミネソタ州セントポール市(1955年)。それを提案したのは、数度長崎市を訪ねたセントポール市の市民でした。被爆地としての長崎市の姿を悲しみ、

「市民同士の友情が深まれば、争いのない平和な世界を築くことができるだろう」と。

国内では  
自治体の姉妹都市締結は1980年代後半から1990年代中葉に激増し、その背景には、「日本経済のバブル景気」(海外に目を向ける財政的な余裕)、「JETPプログラム(外国語指導等を行う外国青年招致事業)」による外国語指導助手の活躍、「ふるさと創生事業の利用による国際交流協会の創設」という3つの要因が考えられます。

1980年代以降、「国際化」、

「国際人」という言葉がよく使われるようになりましたが、その定義や意味は判然としませんでした。しかし「国際化」を論じる時に、表層から見えない底の部分に「変化」、「変容」の意識がありました。宇宙船地球号の乗組員として、他の乗客と共有できる普遍的なものを得得し、自己を変えて行くのが「国際化」であり、その対象は人間だけでなく、制度や習慣など社会の隅々にまで及び、日々の暮らしに大きな影響を及ぼすことになりました。

自治体による地域レベルの国際交流

県内では、17の市町で世界12カ国

28市町と姉妹都市・友好都市交流を行っており、親善型や教育交流が多く、特に青少年派遣・受入事業が中心です。しかし、先進的な取り組みをしている他県の自治体には、問題解決型交流に移行しているところもあり、問題について互いに情報共有し解決していこうという動きも見られます。

地球市民としての高い意識を持つ住民同士の直接的な交流により、信頼が生まれ、国家レベルでは対応できない問題も、自治体レベルで協働して解決することができるようになっています。

地球規模で考え、自分の地域で活動しよう  
**Think globally, act locally**



第13回  
地方自治体の姉妹都市交流  
～岩手県の市町を中心に～  
講師…佐藤 智子氏 岩手県立大学 共通教育センター 教授  
日時…2011年1月23日(日)

「歴史の研究 (A Study of History)」のアーノルド・トインビーが持ち続けた虐げられた者への共感、「トインビーという人

比較文明史の視点で世界の歴史をたどる

「過去の2千年は、ユダヤ教・キリスト教的な一神教に基づき、一直線に突き進み、そこから『進歩』という概念が生まれた。いわば『矢』(飛ぶ矢)がシンボルだった。これからの来るべき3千年紀のシンボルは個性を持ってそれぞれが輝く『星座』であらねばならない。それが多文化共生の尊重」というイタリアの思想家ウンベルト・エーコの言葉の引用から始まりました。

話 は、岩手の先人 新渡戸稲造、宮沢賢治の世界観に行き着きます。「地域が大きな志を持って地球を包み込むことこそ、今私たちに求められている。地域から地球を包みこむ

そして、わたしたちの先人へ

話は、岩手の先人 新渡戸稲造、宮沢賢治の世界観に行き着きます。「地域が大きな志を持って地球を包み込むことこそ、今私たちに求められている。地域から地球を包みこむ

「過去2千年は、ユダヤ教・キリスト教的な一神教に基づき、一直線に突き進み、そこから『進歩』という概念が生まれた。いわば『矢』(飛ぶ矢)がシンボルだった。これからの来るべき3千年紀のシンボルは個性を持ってそれぞれが輝く『星座』であらねばならない。それが多文化共生の尊重」というイタリアの思想家ウンベルト・エーコの言葉の引用から始まりました。

話 は、岩手の先人 新渡戸稲造、宮沢賢治の世界観に行き着きます。「地域が大きな志を持って地球を包み込むことこそ、今私たちに求められている。地域から地球を包みこむ

そして、わたしたちの先人へ

話は、岩手の先人 新渡戸稲造、宮沢賢治の世界観に行き着きます。「地域が大きな志を持って地球を包み込むことこそ、今私たちに求められている。地域から地球を包みこむ



多文化共生連続セミナー  
**いわてグローバルカレッジ**  
**Iwate Glocal College**

2010年9月～2011年1月までの間、14回シリーズで県国際交流センターのほか、県内4カ所で開催した「いわてグローバルカレッジ」。グローバルな視点から、私たちの住む岩手の国際化や多文化共生の歴史・現状・課題について理解を深めるため、県出身の方をはじめ、県に由縁のある方を講師として迎え、講演していただきました。その中から二つの講演(要旨)をご紹介します。

第1回  
「3000年紀に生きる」～シンボルは「矢」から「星座」へ～  
講師…安藤 厚(財)岩手県国際交流協会理事長  
日時…2010年9月5日(日)

「過去2千年は、ユダヤ教・キリスト教的な一神教に基づき、一直線に突き進み、そこから『進歩』という概念が生まれた。いわば『矢』(飛ぶ矢)がシンボルだった。これからの来るべき3千年紀のシンボルは個性を持ってそれぞれが輝く『星座』であらねばならない。それが多文化共生の尊重」というイタリアの思想家ウンベルト・エーコの言葉の引用から始まりました。

「過去2千年は、ユダヤ教・キリスト教的な一神教に基づき、一直線に突き進み、そこから『進歩』という概念が生まれた。いわば『矢』(飛ぶ矢)がシンボルだった。これからの来るべき3千年紀のシンボルは個性を持ってそれぞれが輝く『星座』であらねばならない。それが多文化共生の尊重」というイタリアの思想家ウンベルト・エーコの言葉の引用から始まりました。

話 は、岩手の先人 新渡戸稲造、宮沢賢治の世界観に行き着きます。「地域が大きな志を持って地球を包み込むことこそ、今私たちに求められている。地域から地球を包みこむ

そして、わたしたちの先人へ

話は、岩手の先人 新渡戸稲造、宮沢賢治の世界観に行き着きます。「地域が大きな志を持って地球を包み込むことこそ、今私たちに求められている。地域から地球を包みこむ

「過去2千年は、ユダヤ教・キリスト教的な一神教に基づき、一直線に突き進み、そこから『進歩』という概念が生まれた。いわば『矢』(飛ぶ矢)がシンボルだった。これからの来るべき3千年紀のシンボルは個性を持ってそれぞれが輝く『星座』であらねばならない。それが多文化共生の尊重」というイタリアの思想家ウンベルト・エーコの言葉の引用から始まりました。

話 は、岩手の先人 新渡戸稲造、宮沢賢治の世界観に行き着きます。「地域が大きな志を持って地球を包み込むことこそ、今私たちに求められている。地域から地球を包みこむ

そして、わたしたちの先人へ

話は、岩手の先人 新渡戸稲造、宮沢賢治の世界観に行き着きます。「地域が大きな志を持って地球を包み込むことこそ、今私たちに求められている。地域から地球を包みこむ

# 協会からのお知らせ

## 事業方針

当協会は、2011（平成23）年4月から新しい公益法人制度の下での公益財団法人に移行することとなっています。移行に際しあらためて当協会の設立目的と公益法人の役割と責務を自覚し、公益活動を担う団体として自立的で創造的な活動を一層推進し、公共の福祉を増進していくこととします。

2010年2月に岩手県が策定した「岩手県多文化共生推進プラン」においても、当協会が多文化共生社会の実現の推進に当たっての中核的な組織として役割を果たすことが期待されます。また、2011年3月11日に未曾有の大震災となった東北地方太平洋沖地震・津波が発生し、多くの方々が災害に見舞われたことから、当協会も可能な支援活動を行うこととします。

2011年度の事業計画においては、「多文化共生の地域づくり」、「交流による地域づくり」及び「次代を担う人づくり」に加え、被災者支援を目的とした「震災被災者の支援」の4つを柱として各種事業を展開していくこととします。

なお、2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震・津波による災害に対応するため、事業内容を変更する場合があります。

## 事業内容(概要)

### 多文化共生の地域づくり

- 情報提供
  - ・多言語ホームページによる情報提供
  - ・多言語モバイルサイトによる情報提供
  - ・多言語の国際交流情報紙「jien go」の発行
  - ・震災に関する情報提供【重点】
- 日本語学習支援
  - ・日本語サポーターの登録・育成と活用【重点】
  - ・日本語教室運営支援
  - ・外国人児童生徒支援コーディネーター《新規》
- 外国人県民の生活支援
  - ・外国人相談の実施【重点】
  - ・多言語サポーターの登録・育成と活用【重点】
  - ・私費外国人留学生支援
  - ・災害時多言語支援センター設置訓練
- 講座・研修
  - ・いわてグローバル・カレッジの開催【重点】
  - ・国際理解ワークショップの開催等
- 調査研究
  - ・国際理解ハンドブックの作成《新規》

### 次代を担う人づくり

- 講座・研修
  - ・次世代人材育成事業「いわて青年国際塾」《新規》
  - ・海外体験・留学セミナー《新規》
  - ・インターンシップ・プログラム
  - ・いわてグローバル・カレッジの開催(再掲)【重点】
  - ・国際理解ワークショップの開催等(再掲)
  - ・地域国際化リーダー研修会の開催
- 海外研修員等の受入
  - ・海外研修員等のサポート
- 調査研究
  - ・国際理解ハンドブックの作成(再掲)《新規》

### 交流による地域づくり

- 情報の収集・提供
  - ・国際交流・協力・多文化共生に関する図書・情報の収集・提供
  - ・多言語ホームページによる情報提供(再掲)
  - ・多言語モバイルサイトによる情報提供(再掲)
  - ・メールリスト「いわてプラネット」の運営
  - ・国際交流情報紙「jien go」の発行
  - ・機関誌「いわて国際交流」の発行
- 国際交流の推進
  - ・国際交流センターの運営推進【重点】
  - ・センター運営サポーターの登録・活用
  - ・外国人との交流会「ちやっとランド」の開催
  - ・「2011ワン・ワールド・フェスタinいわて」の開催
  - ・ワン・ワールドで踊ろう「さんさ踊り」《新規》
  - ・外国文化紹介講師派遣
  - ・ホストファミリーの登録・活用
  - ・いわて国際化人材の登録・活用
  - ・国際交流団体等への活動支援
- 国際理解の推進
  - ・「世界学びプラザ」事業《新規》
- 国際交流団体等との連携
  - ・国際交流関係団体連絡会議の開催

### 震災被災者の支援

- 情報提供
  - ・多言語の震災関連情報の情報紙「jien go」(臨時号)発行(再掲)【重点】
  - ・ラジオを通じた震災関連の生活情報提供(再掲)【重点】
- 外国人相談の実施
  - ・震災関連の相談対応(再掲)【重点】
- 調査研究
  - ・災害時対応に関わる調査研究【重点】
- 体制支援
  - ・震災地域団体支援【重点】

2010 ワン・ワールド・フェスタinいわて  
11月28日 アイーナで  
4階県民プラザ  
5階国際交流センター  
気分は世界一周  
ちよい博  
大冒険!  
が行われました!

ユニセフすごろく  
(協力:財)日本ユニセフ協会岩手県支部  
すごろくをしながら途上国の子どもの問題について学びました。

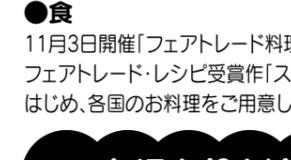


第10回いわてグローバルカレッジ  
外国人が見る日本人論  
～日本と中国の比較文化～  
講師:ウウエ・リヒタ氏  
(岩手県立大学教授)



交流パーティ  
～Autumn PROM～  
世界の踊り&食&交流を楽しもう!  
「秋をイメージする色」のものを身につけるか、民族衣装で参加。

- 踊り
  - ・ダンスショー(日本人グループによるフラ、ウイグルのダンス、コロンビアのラ・ボジェラ・コロラ)
  - ・世界のダンスレッスン(メキシコ、イギリスのフォークダンス、南米のレグトン)
  - ・DJタイムで自由に
  - ・最後には、みんなで「さんさ踊り」
- 食
  - 11月3日開催「フェアトレード料理コンテスト」ベスト・フェアトレード・レシピ受賞作「スパイシー・メンチ」をはじめ、各国のお料理をご用意しました。



ご来場ありがとうございました。

※「ちよい博」とは…「ちっちゃい万博」みたいなものという意味です。  
「2010ワン・ワールド・フェスタinいわて」が2010年11月28日(日)、アイーナ4階県民プラザ、5階国際交流センターで行われました。5回目を迎えたこのイベントは、岩手に在住する外国人と県民が交流するイベントです。また、国際交流や多文化共生社会について考える機会でもあります。今回は、多くの在住外国人やボランティア、国際交流団体とともに協働で開催しました。

- ### プログラム
- 県内在住外国人による「約20カ国の外国紹介ブース」
  - 国際交流団体の展示
  - 第128回外国人との交流会  
ちやっとランド「外国人は見た!岩手って☆\*◆…」
  - 和・文化体験コーナー
  - 国際理解ワークショップ  
「42.195kmの心の旅 孫基禎さんの軌跡をたどる～」
  - キッズランド ～世界のおもちゃで遊ぼう!
  - フェアトレードカフェ ～世界のスナックも!
  - 第10回いわてグローバルカレッジ  
「外国人が見る日本人論～日本と中国の比較文化」
  - 交流パーティ～Autumn PROM～

フェアトレード・カフェ  
(協力:フェアトレードいわて)



～ワールド・ランド～  
外国紹介ブース  
スタンプラリーで  
世界一周!



和・文化体験  
・書道(軟書)(指導:伊藤康子さん)  
・茶道(協力:日本語教室いわて「和」)  
・折り紙



キッズランド  
「外国絵本の読み聞かせ」や  
「世界のおもちゃ&クラフト」。

